



浜松出身の多才な映画音楽家

木下忠司を知っていますか

チェック注目!!

木下忠司^{ちゅうじ}は、映画監督・木下恵介の弟であり、戦後から昭和末期にかけて活動した映画音楽家です。テレビ界でも活動し、『水戸黄門』の主題歌「ああ人生に涙あり」は代表作として知られています。ここでは生誕110周年を機に、その功績を振り返ります。忠司が携わった映画を紹介している木下恵介記念館にも、ぜひお越しください。



提供：木下恵介記念館

映画音楽家デビュー作



『わが恋せし乙女』(1946年)
©1946松竹株式会社

音楽家志望の青年役で出演し、阪東妻三郎と共演(右から2人目が忠司)



『破れ太鼓』(1949年)
©1949松竹株式会社

♪創造の原点は浜松時代に

木下忠司は、1916(大正5)年に浜松町伝馬(現在の中央区伝馬町)で生まれ、浜松第一中学校(現在の浜松北高等学校)を卒業するまで浜松で過ごしました。兄の恵介と共に自宅近くの映画館に通ううちに映画音楽に夢中になり、音楽家を目指すようになりました。

♪兄・恵介の作品で映画音楽家デビュー

終戦後、復員した忠司。1946(昭和21)年に、詩人、作詞家のサトウハチローの詩の作曲を恵介から頼まれ、『わが恋せし乙女』で映画音楽家デビューしました。その後も恵介監督作品のほとんどの音楽を作曲。『喜びも悲しみも幾歳月』の主題歌が大ヒットしました。恵介監督作品以外にも幅広いジャンルの映画音楽を手がけました。生涯で携わった作品総数はおよそ490に及びます。

♪みんながよく知る作品も

妻の関根光致子と共にプロダクションを立ち上げ、プロデューサーとしても活動しました。テレビアニメーション作品『カリメロ』や『赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ』を制作するなど、お茶の間を楽しませました。

「強く印象に残っている忠司作曲作品」ランキング

- | | | |
|----|------------|-----|
| 1位 | 喜びも悲しみも幾歳月 | 50票 |
| 2位 | ああ人生に涙あり | 40票 |
| 3位 | 泣いてたまるか | 27票 |
| 4位 | カルメン故郷に帰る | 26票 |
| 5位 | 破れ太鼓 | 15票 |
- (77通回収／複数回答可)



木下恵介記念館で
聞きました

『喜びも悲しみも
幾歳月』(1957年)
©1957松竹株式会社



赤い鳥のころ
日本名作童話シリーズ25
『ごんぎつね』(1979年) ©水星社 2015

お出かけ情報♪ 木下恵介記念館へ行こう

木下恵介記念館は、1930(昭和5)年に建設された旧浜松銀行協会の建物内にあります。映画上映会(21ページに掲載)を毎月開催しているほか、恵介監督作品のポスターや脚本、恵介ゆかりの品などを展示しています。2階の部屋は貸室として、上映会や演奏会などのイベントや練習で利用することができます。

- 住 所 中央区栄町3-1(浜松駅から徒歩15分)
- 開館時間 9:00 ~ 17:00
- 休 館 日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始、メンテナンス休館日
- 観 覧 料 100円(70歳以上、障害手帳を持っている人、高校生以下は無料)

開催決定!!

木下忠司生誕110周年を記念した上映会と、映画音楽の専門家の講演会を、12月6日(日)に開催します。詳細は、8月ごろに木下恵介記念館ホームページでお知らせします。



展示室

展示しているホームムービーや写真に、忠司の姿を見ることができます。

HP▶ 木下恵介記念館 検索

